

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992400147		
法人名	社会福祉法人 伊野福祉会		
事業所名	グループホーム 壽幸園		
所在地	高知県吾川郡いの町天王南5丁目2番地14		
自己評価作成日	平成29年10月18日	評価結果 市町村受理日	平成30年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は天王ニュータウンの一角にあり、1階にデイサービス事業所、道路を隔てて小規模多機能事業所を併設し、合同の音楽療法や、お花クラブ等の行事に参加して、各事業所との交流があります。地域交流行事、活動への参加では、町のコミュニティセンターで行われている、健康体操やお茶会サロン、天王納涼祭、いの町けんこう祭り等にも出展参加し、地域の方々とのふれあいを大切に、地域に溶け込むように努めています。

職員は事業所の理念に基づいた自己目標を立て、その人らしい暮らし方を支える為、ケアの具体化を考えるようにしています。往診診療、訪問歯科、在宅マッサージ等を受け入れ、少しでも利用者の身体的な要望に応えるべく、連携を図っております。また、積極的な研修への参加、職員の接遇マナーや専門的スキルアップ、年6回の事業所内研修等により、より良いチームケアを目指して、サービスの質の向上に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihontrue&JiyosyoCd=3992400147-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅団地の一角にあり、1階にデイサービス事業所と居宅介護支援事業所、2階にグループホームとなっている。同一法人の小規模多機能型事業所も道路を隔てた位置にあり、行事や防災訓練の連携が取りやすくなっている。地域との交流も盛んで、近隣のコミュニティセンターの健康体操やお茶サロン、納涼祭にも積極的に参加している。

医療面でも近くの診療所と連携を取り、気軽に相談、受診、往診が出来る体制にある。防災訓練には熱心に取り組んでおり、1階のデイサービス事業所と毎月避難訓練を行っている。

最近事業所間での人事異動があったが、その人らしさを大切にする管理者と、気長に利用者を介助する職員達が一丸となり、より良いチームケアを目指して、利用者支援に努めている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を基にすり合わせ目標を立て、住み慣れた地域で楽しみのある、その人らしい暮らしと関係性の継続が日々のケアの中で実践できるよう、取り組んでいる。	事業所独自の理念を基に、多職種との連携、家族の協力のもとにその人らしい暮らしの支援等、理念を具体化した個人目標を立て、半年ごとに見直し評価することで職員に意識付けをし、理念を反映したケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月3回のコミュニティーセンターでの健康体操や、地域のお茶会サロン等に参加したり、地域住民の誘いを受け、庭の花を見に行かせてもらったり、自宅で採れた果物の差し入れがあったりと、幅広く交流している。	地域行事に積極的に参加し、天王地区全体の納涼祭では事業所からフランクフルトやコロッケなどの出店をして好評であった。また、季節になると近隣住民が自宅で採れたみかんをおすそ分けしてくれるなど、日常的に地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回事業所地域だよりを発信し、町内の量販店や郵便局、コミュニティーセンター等に掲示し、認知症の理解促進に取り組んでいる。10月の事業所内研修では、家族や地域住民にも案内し、参加してもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを報告する事により、参加メンバーから質問、意見、要望等を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。地域住民の助言や協力を得る事が出来るように努め、欠席の家族には運営推進会議報告書で確認してもらっている。	参加者との活発な意見交換があり、双方向的な会議になっている。議事録は分かりやすくまとめられていて、欠席した家族には報告書形式で送付している。また、外部評価で明らかになった課題についても協議し、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加等で、日ごろから情報共有し、助言指導を受けている。介護認定調査時には、必要な情報提供をしている。いの町グループホーム介護支援専門員等による会に参加し、事例検討会や意見交換等行っている。	町の担当者とは運営推進会議を通して事業所の実情を報告し、情報共有が出来ている。ケア提供時や介護保険の解釈などでの疑問は気軽に相談できるなど、日頃から協力関係が出来てる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人の虐待・身体拘束廃止委員会に当事業所から1名委員として参加している。年内には「虐待・身体拘束廃止」研修会を実施の予定で、利用者の外出にもさりげなく声かけをしたり、一緒について行く等、安全面に配慮した、身体拘束のない支援できるように取り組んでいる。	事業所内研修や外部研修等で、職員は何が身体拘束にあたるかを理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。一人で外出した利用者など、個々の習慣や傾向を職員は把握していて、声掛けや一緒について行くなど、個別に対応している。リスクに関しては、家族と話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修会を教育委員会と連携して行っている。高齢者虐待に関する事例や情報の回覧等行っている。防止に向けた取り組みを行い、日々共有するようにしている。職員のアンケート調査を行い、その結果をケアの質の向上にどう活かしていくか検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、事業所内研修や外部研修に参加し、マニュアル等で学ぶ機会を持って、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方、取り組み、退所を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の状態の変化により、契約解除に至る場合には、本人を交えて家族等と今後の対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回家族会を開催し、8月の家族会では家族だけの時間をとっている。玄関入り口には意見箱を設置し、気付いたことを書いてもらうようにしている。家族の思い、意見を汲み取り、その人らしい暮らしが送れるように取り組んでいる。	年3回(4月、8月、12月)家族会を開催し、8月の家族会では家族だけの集まりの場を設定して、家族からの意見、要望がケアの向上に反映出来るようにしている。事業所便りを毎月発行し、利用者の様子を家族に伝えて、面会時にも家族の意向把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会や、日々のミーティングにおいて出来るだけ職員の意見、提案等を聞いている。運営推進会議や家族会等の書記は常勤職員が持ち回りでを行い、会議録作成に関しては、書類業務としてもらえるか検討している。	月1回の部署会や日々のミーティングで職員の意見、要望を聞いている。運営推進会議会議録の作成に関しては、書類業務として時間が取れるかの話し合いを行っており、職場環境などで職員の気付きや意見が反映できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境が維持出来るようにしている。職員の努力や実績について配慮し、事業所内研修についても時間外手当をつけており、向上心を持って働けるように取り組んでいる。職員には、積極的な研修参加を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の現場では技術や知識を身につけている。事業所内研修は、2ヶ月に1回開催報告書の提出により振返り、レベルアップにつなげている。職員の段階に応じて施設外研修を受けるようになっている。自主研修においても、優先的に休みが取れるように配慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属しており、いの町グループホーム介護支援専門員の会等に参加し、交流の機会を持って、サービスの質の向上を図るように努めている。近隣の事業所とは、お互いの行事に参加したりして交流している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人、家族から生活状況等を把握するように努め、必ず本人に会ってその思いに向き合い、信頼関係を築き、安心して暮らせるように取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今何に困っているか、何を不安に思っているか等を受け止め、事業所としてどのように対応できるかについて、家族と事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聞き、その意向や要望に沿うよう、可能な限り柔軟な対応に努めている。場合によっては、地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげる等の体制をとっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者相互が思いやり、家族のように寄り添い、和やかに暮らせるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時には、利用者の日常の様子を報告し、居室でゆっくり話しができるように対応している。事業所行事には参加の声かけも行き、家族もケアの一員、という関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、知人等の訪問時には、居室でゆっくりしてもらえる環境づくりを行っている。年賀状等を出すことにより、交流が図れるよう働きかけしている。利用者は、携帯電話等でいつでも話しができる状況にあり、馴染みの人との関係が途切れ無いように努めている。	親戚、家族、知人の訪問時にゆっくり話が出るよう配慮し、年賀状を出したり、携帯電話で気軽に会話ができるようにもして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族の協力を得て外出や外食をしている利用者もいるが、馴染みの場所訪問など、事業所から出かける機会が少ない。	近隣から入所した利用者は、散歩がてら、近辺の馴染みの場所へ出かける工夫をし、また、ドライブで外出するときにも、以前住んでいた所の近辺に行くなど、外出しての馴染みの関係継続支援に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報共有し、おやつや食事、レクリエーション、作業等のときには、職員も一緒に多くの会話を持つよう努めて、利用者同士の関係作りに努め、利用者が互いに関わり、支え合える環境作りを働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族とは、契約終了後も事業所委員の継続や訪問もあり、相談や意見等をもらって、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の作成において、本人、家族の意向を十分に聞き、計画に取り入れている。意向の把握が困難であったり、不確実な場合は、本人の視点に立って職員間で意見交換し、家族に確認している。	本人、家族に聞いたり、介護計画見直し時にアセスメントシートの見直しや、入所後知り得た情報の追記を行い、利用者の意向把握に努めている。意向確認が困難な利用者には、家族からの要望を聞くほか、日頃の表情、仕草などから本人の意向を汲み取るよう、職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの生活歴の聞き取りを行っている。居宅支援事業所や他の施設等と連携を行い、情報収集を行っている。入所後は利用者の話に耳を傾け、困っている事や不安等がないか、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態や状況に合わせ、無理の無いように努め、穏やかに過ごしている。できる事、もうできない事等について、気づきノートや日々の記録、申し送り等により現状把握と情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、要望、思い等を聞き、何が大切か現在の課題を上げ、職員全員での意見交換とモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	作成前に担当者会を開催し、本人、家族の意向を聞いている。モニタリング、カンファレンスは月1回の部署会を利用して開催し、担当職員や他の職員との意見交換を行い、作成している。また、状態変化時には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳、気づきノート、個別記録により本人の変化や状況が全職員に把握出来やすいようなシステムを作り、情報が介護計画が活かされやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟に対応している。家族の同行受診が困難な場合には、介護タクシーの手配等も促している。	近隣の接骨院受診時には職員が通院の送迎を行ったり、訪問マッサージの利用等、柔軟に対応している。家族の同行受診が困難な場合には、介護タクシーの手配等も促している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いの町主催の健康まつりに利用者の作品を出品し、地域住民との交流を持つほか、コミュニティセンターでの健康体操、お茶会サロンでは、地域住民の力を借りている。地域の納涼祭には、法人として出店し、利用者7名が参加して、踊りや演奏を楽しんだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診は家族同行が原則だが、家族が行けない場合には、職員が同行している。状態が変化しているときには、事業所からの情報提供書を持参してもらっている。定期的な健康診断も受診し、職員が同行している。	本人、家族が希望する医療機関をかかりつけ医として受診している。受診は家族同行だが、職員同行も臨機応変に対応している。状態変化時には事業所からの情報提供書を持参している。また、受診結果に関する情報は生活記録に保管し、情報共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、看護師による週2日の訪問を受け、服薬管理のほか、必要な助言指導を受けている。必要時には他事業所の看護師の協力もあり、適切な情報が協力病院と薬局に伝わっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、短期入院であっても事業所での状態を医療機関に情報提供し、利用者の環境の変化による精神的負担を極力減らすため、出向いて本人の状況確認を行い、病院側と連携を図るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に基づき終末期の支援のあり方等について本人、家族様に説明しているほか、重度化が進む段階で、家族と今後の対応について話し合っている。本人の体調や状態の変化時には、その都度報告し、相談している。	看取りの指針があり、入所時に本人、家族に説明している。重度化した場合には、その都度家族や関係者と話し合い、事業所のできる事、できない事を伝えてその後の方針を決めていくことになる。過去に看取りの事例もあり、看護師を交えて看取りの勉強会も開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED取扱いについて事業所内研修を行い、職員は、心肺蘇生法について学んでいる。応急手当のマニュアルに基づき対応し、夜間緊急時対応についてもマニュアルを整備して、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回デイサービス事業所と合同の避難訓練を行っている。年1回、消防署立会での訓練を継続的に行なっている。地域住民にも避難通報が行くようになっており、誘導や避難の協力が得られている。災害に備え保存水、非常食も備蓄している。	年1回の消防署立会での防災訓練のほか、毎月デイサービス事業所合同の避難訓練を実施している。災害時には3名の近隣住民に通報が行き、協力が得られる体制がある。うち1名は、毎月の訓練にも参加している。非常用食料の備蓄のほか、担架やベランダに災害用ハッチも設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に権利擁護や尊厳についての事業所内研修を実施し、職員間でプライバシー保護の再確認を行っている。日常的な介護の現場でも、プライバシーに配慮した自尊心を傷つけない声掛けや、対応を行っている。	日頃から、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシー保護について職員間で話し合っている。日々のケアの中で、馴れや親しみからくる職員の気になる言動が見られた場合には、管理者がその場で注意するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケア提供時には、必ず本人の意志を確認している。十分な意思表示が出来ない利用者にも、表情や反応を観察して、無理なケア提供は行わないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が自由に服を選び、過度の重ね着や、季節にそぐわない服装の場合には、職員が声掛けや対応をしている。美容院は馴染みの店が利用できるよう支援しており、地域の訪問理容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、利用者の希望を反映させている。テーブルを拭いたり、配膳や盛り付け、後片付け等、利用者個々の力に合わせて、主体的に取り組んでもらっている。職員も同じテーブルで、同じものを食べている。	献立は利用者の希望を伝えて栄養士が立て、調理はデイサービス事業所の厨房で、合同で行っている。盛り付け、下膳、食器拭きなど、利用者も出来る事をしている。また、ウナギのかば焼きやカツオのわら焼きなどを庭で行い、利用者の季節の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、情報共有している。昼食、夕食は栄養士が栄養バランスやカロリーを計算し、季節の食材や彩りにも配慮している。利用者の状態に応じて、刻みやミキサー食等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者のできることに合わせて見守ったり、支援をしている。必要な利用者には、歯科訪問診療を利用し、職員も一緒に指導を受けて、個々の能力に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、タイミングに気を付け、さりげなくトイレ誘導をしている。夜間はオムツ使用の利用者でも、昼間は紙パンツでポータブルトイレでの排泄の支援を行っている。	個々の排泄パターンの把握により、時間誘導でトイレでの排泄支援をしている。全居室にトイレがあるが、立位が困難になった利用者にはリフトの利用でポータブルトイレに移乗するなど、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の便秘の原因を探り、繊維の多い食材や粉寒天ゼリーを摂取している。また、体操等の運動もしている。食後にはトイレに座ってもらい、自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認しながら本人の希望を取り入れ、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否の利用者には、入った時のタイミングを職員間で共有して、対応の工夫をしている。	平均3日に一度の入浴となっている。入浴拒否の利用者には、声掛けや時間ずらしなどの試行錯誤を職員間で情報共有して、最低でも週1、2回の入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。利用者個々の体調や、希望を考慮して、仮眠を取ってもらったり、ゆっくり休息がとれよう支援している。不眠の訴え等ある場合には、医師と連携して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋コピーを利用者ごとに整理し、職員が把握できるようにしている。症状の変化等は、すぐに管理者と看護師に報告するとともに、職員間で共有し対応している。医師、薬剤師と連携した、適正な支援ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る範囲で力を発揮してもらえよう、洗濯物たたみ、チラシ折り等、一人ひとりの役割に対して、声掛けや見守りを行っている。ホールでは歌を唄ったり、職員が紙芝居や本を読んだりして、楽しく過ごせるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	4月、6月の桜や紫陽花見学、8月の天王納涼祭、10月にはコスモス見学等を行っている。気分転換を兼ね、散歩等の週1回の外出に取り組んでいるが、本人の意向や体調等により定着はできていない。	季節の花見やドライブ、納涼祭参加のほか、家族の協力により外食や買い物を楽しんでいる。また、気分転換を兼ね週1回の散歩や外出にも取り組んでいる。日常的な外出の機会を増やすように努力をしているが、天気の良い日に日常的に散歩するまでには至っていない。	利用者の意向や体調など考慮して、散歩が困難であれば事業所の玄関先での外気浴など、外の空気に触れる機会を積極的に作る工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解と協力で小銭を自己管理する利用者がおり、事業所が金銭管理する利用者でも、外出時や買い物時の支払いは自分でできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す支援を行っており、返信が届く等、双方向的なやり取りが出来ている。電話も本人自らがかけられるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井からの太陽光がコンピューターにより管理され、やさしい光が差し込み、陽だまりのような温かさが自然に作りだされている。ホールには、お花クラブで作成した花や、季節に合わせた野の草花を飾っている。行事の飾りつけや模様替え等は、利用者と一緒に、相談して行うようにしている。	共用空間にはツブキの花が活けられ、玄関には利用者の描いた絵手紙が飾られるなど、季節感のある適度な装飾になっている。調度品も一般家庭で使用される馴染の家具が配置され、手すりの設置など、安全面にも配慮された、居心地の良い共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには一人掛けのテーブルや、ソファ等を配置しており、利用者はそれぞれ好きな場所で過ごしている。利用者様同士で昔の思い出話をしたり、テレビを見たりする様子が、よく見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れたものを本人と家族と一緒に選んでもらい、配置等も本人の希望に配慮した、見慣れて安心できる居室作りを心がけている。家族の写真や、好きな動物のカレンダー等も飾られ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室によってバラつきはあるが、使い慣れた筆筒、家族写真、テレビ、相撲好きな利用者の居室には轟員の力士の写真や番付表、相撲関連のグッズが飾られ、その人がそこで安心して過ごせる居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動できるよう、3居室のトイレ入口に手摺りを設置し、2居室のベッドには、L字バーを設置している。タンスに何が入っているのか貼紙をしたり、その人に合わせた支援に努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				